

学生の成長を実感する「熱き」報告会！

准教授 山本美香

2013年2月5日に、実習報告会、アドボカシーセミナー、専門実習報告会、卒論報告会を実施しました。今回は、このさまざまな報告会についてご紹介します。

2012年度は120名余の学生が実習に行きました。今回の報告会では、約半年かけて自らの実習を振り返ったまとめを披露しました。実習で得た社会福祉の知識やスキルといったことのほかに、職員さんの言葉で心に残ったこと、利用者さんから教えていただいたことなど、多様な視点から実習での学びが語られました。来年度、実習に行く2年生も緊張した面持ちで3年生の発表を聞いていました。実習の後で、学生が大きく成長したことを実感できる場がこの実習報告会です。



アドボカシーセミナーでは、「社会福祉とアドボカシー」というタイトルで、東京未来大学こども心理学部教授の上田征三先生よりご講演をいただきました。先生ご自身の体験もふまえ、また国際会議での討議などグローバルな視点で語っていただき、障害者の権利擁護をどのように考えるべきかを学ぶことができました。

専門実習報告会では、7名の4年生が発表しました。3年時の実習とは異なり、母子生活支援施設や病院など自分で開拓してきた現場での学びは、いっそう深いものとなったことでしょう。できれば、より多くの学生に専門実習の機会が提供できればと思っています。



最後に、卒論報告会が行われました。各ゼミから1名選抜で、いずれも優秀な論文がそろいました。「住民ボランティアが行う配食サービスの意義と可能性」「障害者の性行動に関する職員意識の性差」「高齢者の健康意識と主観的幸福感」などの研究発表が次々に行われ、「こんなにすごい発表ができるんだ！」と学生、教員ともども感心することしきりでした。来年度、卒論を書く3年生も「自分もあの場に立ちたい！！」と気持ちを固めた熱い報告会となりました。